

2018年8月5日

福音書からのメッセージ

イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。

(ヨハネによる福音書6章35節)

わたしが命のパンである。今日の箇所で、イエス様はこう語ります。命のパン、それは一体、何なのでしょう。

イエス様は5000人の群衆を、5つのパンと2匹の魚だけで満腹させました。その光景を目の当たりにした群衆は、イエス様を王にしようとします。イスラエルの人たちにとって、このパンの奇跡は特別なものでした。出エジプトの物語の中で、彼らの祖先はマナというパンによって、40年間神さまに養われたからです。

そして今、目の前にいるイエス様は、わずかなパンで自分たちを満たしてくれた。だから彼らはイエス様を捜し求めたのです。ガリラヤからやってきたイエスという男が弟子たちを引き連れ、病人を癒し、今まで相手にされなかった人たちを受け入れ、教えを語っていた。そしてわずかなパンと魚を増やし、大勢の人を満たした。イエス様に出会った群衆は、興奮状態だったことでしょう。しかしイエス様は彼らに、「朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくなるで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい」と告げます。

「朽ちる食べ物」とは、わたしたちが普段食しているようなものだと思います。では「永遠の命に至る食べ物」とは何でしょうか。命のパン、神のパン、そのような言葉が聖書に並びます。神さまは、わたしたちにそのパンを与えられます。そのパンと



は天から降って来て、世に命を与えてくれるものです。わたしたちに命を与えるために天から遣わされたパン、それはまさしく

イエス様のことではないでしょうか。

わたしたちは礼拝の中で、聖餐式をおこないません。聖餐式は、み言葉と聖餐、その両輪からなっています。聖書のみ言葉に聞くこと、それはみ子であるイエス様の言葉に聞くこと、イエス様に従い、受け入れることに他なりません。そして聖餐の中で、わたしたちはキリストの体と血にあずかります。み言葉によって、そして聖餐によって生かされている。それがわたしたちなのです。

イエス様はそのために来られました。わたしたちに命を与えるため、「命のパン」としてわたしたちを飢えや渴きから、わたしたちの心を襲う飢えや渴きから遠ざけるために、イエス様は自らをささげられたのです。

わたしたちはいろいろな物を欲して生きています。しかし本当に必要なものは何でしょうか。イエス様という命のパンに生かされ、歩んで行くことができると願います。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>